

2022年度アニメ・アーカイブ研究チーム活動報告

アニメ中間素材のアーカイブ活動も6年目を迎えた2022年度は、これまでの研究成果を、市民・学生の皆様に伝える、3つのアウトリーチ活動を行いました。1つ目は、アニメ中間素材展覧会と関連シンポジウムの開催です。2つ目は、論文集『グローバル・アニメ論 身体/アーカイブ/トランスナショナル』（青弓社）の刊行です。3つ目は、中間素材データベース「新潟大学アニメ中間素材データベース ACASIN-DB（テキスト版）」の公開です。

アニメ中間素材展「原画から見る1980年代TVアニメ」

新潟国際アニメーション映画祭関連企画「TVアニメの透視模型（パースペクティブ）」開催！

新潟大学アニメ・アーカイブ研究チームが管理を一任されている、アニメ中間素材の資料体「渡部コレクション」には、東映動画が制作したセル・アニメ『夢戦士ウイングマン』（1984-85）第12話の原画の90パーセント、絵コンテ、タイムシート、脚本が含まれています。これらは、中間素材の多くが廃棄されてきた時代を、奇跡的に生き抜いた大変貴重なものです。

こうした素材を現物とレプリカで展示することに加え、映像作家五島一浩氏にインスタレーション「Peel-Apart TV Anime」を制作してもらい、セル・アニメの仕組みを来場者に体感してもらいました。東映アニメーション様、桂正和先生、集英社様から、開催許諾をいただいたことも、大きな成果です。アニメ中間素材を通してアニメの仕組みを伝えるこれらの展覧会は、市民・学生・研究者、そしてアニメ業界からも高い評価を得ました。



旭町学術資料展示館（2022年9月）



ポスター



駅南キャンパスときめいと（2023年3月）

* 「原画から見る1980年代TVアニメ」2022年9月7日-11月4日、新潟大学旭町学術資料展示館

来場者：688名

・同展関連イベント

アニメ中間素材シンポジウム①「1980年テレビアニメを語る」（2022年9月10日、有任記念会館にてハイブリッド開催 参加者79名）、アニメ中間素材シンポジウム②「アニメ中間素材の創造性 映像作家五島一浩のメソッドを中心に」（2022年9月11日、有任記念会館にてハイブリッド開催 参加者65名、研究報告会「アニメ中間素材から再考するアニメ研究」（2022年10月2日、有任記念会館にてハイブリッド開催 参加者57名）

*新潟国際アニメーション映画祭関連企画「TV アニメの透視模型（パースペクティブ）」2023年3月17日ー22日、新潟大学駅南キャンパスときめいと
来場者：184名

論文集『グローバル・アニメ論 身体/アーカイブ/トランスナショナル』（青弓社）の刊行！

いまやグローバルなメディアに成長したアニメについては、日本で見聞きすることだけが、そのすべてではありません。フィリピン、スペイン、カナダなど、世界各地においてアニメで育った若手研究者によるアニメ研究を、日本の読者に伝えるために編纂しました。なお、同書に収録されている論文の多くは、2021年3月に開催した国際コンファランス「アニメ研究を切り開く：声とアーカイブ Beyond Theorizing Anime: Voices and Archiving」での発表を論文化したものです。



新潟大学アニメ中間素材データベース ACASIN-DB (テキスト版)の公開！

2020年度から科研費基盤（B）のもと、アニメ中間素材のデータベースを構築してきました。2022年度はそのテキスト版を公開いたしました。新潟大学にはどのようなアニメ中間素材があるのか。ログインなしで、どなたにでも、

検索ができます。ぜひ、下記にアクセスください。 <http://acasin-db.jp/>

文責：石田美紀